

## 会津木綿を使用した若者向けの服装

29番 村松のぞみ

### 【制作意図】

会津もめんは、濃い藍色とたて縞柄が特徴の厚地で実用的なもめんです。その歴史は古く、江戸時代から普段着、仕事着、寝具などに使われていました。今日、織元は2社に減ってしまい、染めも化学染料がほとんどですが、それによって色鮮やかなもめんも誕生し、昔ながらの技法に新たな魅力を加えています。

しかし、その多くは観光客向け用にバック、ネクタイなどの小物として販売されているほか、反物などは関西方面に出荷しているとのこと。小物だけではもったない。もっと若い人にも会津もめんの良さを分かってもらいたいと思い、若い人にも着やすいデザインの服を制作することにしました。

### 【制作過程】



### デザインコンセプト

- スタイル1 「シンプル カジュアル」  
現代の仕事着ともいえるツナギを制作。シンプルにたて縞を活かし、袖をなくしたことでより活動的に見えるデザイン。
- スタイル2 「縞の組み合わせ」  
若い人が着やすいワンピースという形で、会津もめんの特徴である縞を活かしたデザイン。縞の角度を変えて使用することで、組み合わせのおもしろさをだす。
- スタイル3 「伝統日本キモノ風」  
日本の伝統文化である着物からの発想。ボタンで留めるため、簡単に着物気分を味わえる。それぞれ単品でも着回しが出来る。

### 【考察】

考えて描く事は簡単でも、実際に作り上げるのはなかなか難しい作業でした。自分の中のイメージと、実際の布の効果や性質が違っていたりしてとまどいました。特に、スタイル2・3は縞をたくさん使って制作する予定でした。しかし、縞の組み合わせは当初ののままであるさすぎて、どこまでなら縞のおもしろさを出せて、見た目にも心地良い物になるのか悩みました。でも考えて制作した分だけ良い物が出来たと思います。特にスタイル3の巻きスカートなどは普段でも充分に使える物になりました。

会津もめんで作る服は確かに手間がかかりますが、とても良い経験になりました。和服にも洋服にも合い、一部だけでもとても素敵な物が出来ます。もっとたくさんの人に会津もめに触れてもらいたいと思いました。

### ◎ スタイル1



### ◎ スタイル2



### ◎ スタイル3